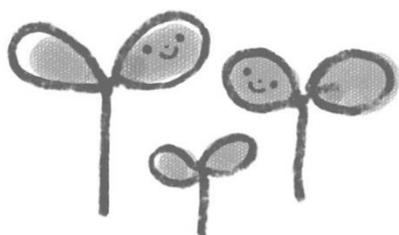


平成 26 年度 全国学力・学習状況調査
— 質問紙調査結果 鈴鹿市の概要 と Q&A —



平成 26 年 1 1 月

鈴鹿市教育委員会教育指導課

目 次

1	学びの質	
(1)	学習状況・指導方法	1
(2)	言語活動	5
(3)	探究的な学習	11
(4)	読書活動	14
2	家庭学習	17
3	教員の研修・取組	21
4	学校生活	24
5	基本的生活習慣・家庭生活	26
6	家族・地域・社会とのかかわり	29
7	自尊意識等	33
8	規範意識	36
	参考文献	37

Q&A

Q 1	なぜ、めあてと振り返りが大事なのですか？	3
Q 2	具体的に、「めあて」と「振り返り」をどのように取り入れたらいいですか？	4
Q 3	話し合う活動を効果的にさせるよい手立てはありますか？	8
Q 4	読書感想文を書く指導はどうしたらいいですか？	9
Q 5	国語科だけではない、各教科等を通じた言語活動とは、どういうことですか？	10
Q 6	本やインターネットを使った資料の調べ方について、どのようなことを指導すればいいですか？	13
Q 7	本好きな子を増やすには、どうすればいいですか？	16
Q 8	宿題がマンネリ化しないために、できる工夫はありますか？	20
Q 9	小中学校の連携について、全国的には、どのような取組がありますか？	23
Q 10	子どもが相談しやすい関係づくりをどうすればいいですか？	25
Q 11	テレビやゲームの時間を短くする取組には、どのようなものがありますか？	28
Q 12	新聞に興味をもたせるには、どうしたらいいですか？	32
Q 13	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導とは、どのような指導をすることですか？	35



1 学びの質

(1) 学習状況・指導方法

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<小学校>

- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を取り入れること
授業の冒頭で目標を示す（示される）ことに対する児童と教師の認識の差
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れること
授業の最後に学習内容を振り返る活動に対する児童と教師の認識の差

<中学校>

- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を取り入れること
授業の冒頭で目標を示す（示される）ことに対する生徒と教師の認識の差
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れること
授業の最後に学習内容を振り返る活動に対する生徒と教師の認識の差
- 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
- 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めること
- 学習規律の維持
- 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えること

小学校

児童質問紙

表1 児童の「学習状況・指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
44	※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。 5年生までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	抽出	77.0		82.0	△
45	5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	抽出	69.4		71.9	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表2 「学習状況・指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
28	前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか	80.0	96.7	↑	96.9	△
29	前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	60.0	80.0	↑	91.6	▲
31	前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	96.6	96.6	—	93.9	○
32	前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	100.0	96.7	↓	96.9	△
35	前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか	100.0	96.7	↓	96.2	○
36	前年度までに、学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしましたか	100.0	96.7	↓	97.4	△
37	前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	90.0	90.0	—	91.0	△
71	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか	86.6	86.7	↑	84.9	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校

生徒質問紙

表3 生徒の「学習状況・指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
44	1,2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	抽出	67.8		71.5	△
45	1,2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	抽出	54.5		53.3	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表4 児童の「学習状況・指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
28	前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか	90.0	100.0	↑	94.0	◎
29	前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	70.0	100.0	↑	89.2	◎
31	前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	100.0	80.0	↓	91.1	▲
32	前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	90.0	80.0	↓	93.3	▲
35	前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか	100.0	90.0	↓	96.6	▲
36	前年度までに、学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしましたか	100.0	100.0	—	97.1	○
37	前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	70.0	60.0	↓	82.7	▲
69	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか	90.0	90.0	—	83.6	◎

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0<○<+5≤◎

Q&A

Q1 なぜ、めあてと振り返りが大事なのですか？



A 「めあてと振り返り」に関して、今次学習指導要領総則の中に、「各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」と示されています。

「学習の見通し」には、学習の手順の見通しと、学習内容・目標の見通しがあります。「めあて」を提示することは、後者にあたります。

児童生徒が、その授業において、あるいはその単元で「何を学ぶのか」を理解し、結果として授業で(単元で)、「何を学んだのか」を実感できる学習活動を展開することは、自主的に学ぶ態度と学習意欲の向上、学習内容の定着や思考力・判断力・表現力等の育成につながります。

「めあて」とは、その授業のゴールにあたるものです。ゴールがなければ、児童生徒の学習に向かう必然性が生まれません。「めあて」を掲げることにより、「何のために今日の学習活動があるのか」「今日は、何ができたらよいのか」を理解して学習を始めることができます。

また、「～ができるようになるかもしれない」「前よりもできるようになるかもしれない」という学習への期待感を高めることができます。「振り返り」は、「めあてにかえて振り返る」こととなります。「めあてである問いや課題が解決できたか？」「なぜ解決したのか？なぜ未解決なのか？」「自分の考えがどう高まったか？」を振り返ることで、身に付いた知識や技能を確認(メタ認知)し、その学習の自分にとっての意味を確認し、学んだことへの達成感を味わうことになり、次への学習の意欲が高まり、今後の学習の見通しを立てることにもなります。

Q&A

Q2 具体的に、「めあて」と「振り返り」をどのように取り入れたらいいですか？



A 子どもが授業の最初に、「今日は何を学ぶのか」「何のために学ぶのか」を理解し、目的をもって意欲的に取り組めるようにするには、教師のもつねらいを子どもにめあてとして提示するだけでは不十分です。効果的な「めあて」の提示をするために、例えば、1時間の授業の見通しだけでなく、単元全体の見通しを可視化した掲示(計画表)等を示しながら、今日の学びの位置と意味について話題化してはどうでしょうか。そして、単元のゴール(「こんなことができるようになっていく」「こんなものが完成する」)を意識し、めあての冒頭に「○○○のために」や「○○○が分かるように」等を入れてみましょう。

また、その際に、教師から提示する場合と、一人一人の児童生徒がめあてや目標を書いたり発表したり、ペアやグループで交流してから公表したりと方法はさまざまです。

最近では、授業の初めに先生と子どもと一緒にルーブリック(評価基準)をつくる活動を組み込んだ実践も広がってきています。要は、先生は「めあて」を提示したつもりでも、児童生徒に「めあてである」という自覚がないのでは、意味がありません。共有できる工夫が必要です。

振り返りについては、まずは、振り返る時間の位置づけと時間の確保、そしてめあて(課題)に正対した振り返りをさせることが必要です。方法については、学習したことをノートに書く、学習シートで理解した筋道を振り返る、自己評価カードで振り返るなどさまざまな方法がありますし、個人単位の振り返りと教室単位の振り返りがあります。

いずれにしても「それでは、あと5分ですから、授業の振り返りを書きましょう。」という指示だけでは、「今日の授業は、～ができて楽しかった。」といった学習活動の感想に終わってしまいます。例えば、低学年では「まとめをみんなで考え、一緒に書く」「分かったことやできるようになったこと、思ったことを書く」、中、高学年と学年が上がれば、「授業を振り返り、解決した結果を自分の言葉でまとめる」「視点に沿って、学習の感想を書く」など、系統立てた指導が必要でしょう。さらに、振り返り(まとめ)の書かせ方のポイントとして、教室にこんな掲示があってもいいですね。

- ①書き出し：学習課題(めあて)の文から、まとめの文章の主語(書き出し)をきめて書こう
- ②キーワードさがし：ノートや黒板を見て、学習内容をふり返り、大事な言葉(キーワード)や式などを見つけよう。
- ③つなげて：書き出しにつながるように、キーワードや式などを使って、つづきを書こう。
- ④読み返し：書いた文章を読み返し、まちがいを直そう。

(2) 言語活動

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<小学校>

- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手に伝えること、相手の考えを最後まで聞くこと、自分の考えを深めたり、広げたりすること
- 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くこと
- 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすること

- 各教科等の指導のねらいを明確にし、言語活動を位置付けること
- 学校全体で、国語科だけではない、各教科等を通じた言語活動に取り組むこと

<中学校>

- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手に伝えること、自分の考えを深めたり、広げたりすること
- 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くこと
- 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすること

- 学校全体で、国語科だけではない、各教科等を通じた言語活動に取り組むこと

小学校

児童質問紙

表5 児童の「言語活動」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
	※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。					
7	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	抽出	51.3		49.5	○
8	友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか	抽出	78.2		74.8	○
9	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	抽出	92.7		91.7	○

46	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか(※「難しいと思わない」「どちらかといえば難しいと思わない」)	27.1	27.9	↑	36.4	▲
47	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか(※「難しいと思わない」「どちらかといえば難しいと思わない」)	36.0	39.3	↑	42.3	△
42	5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	82.0	84.4	↑	83.7	○
43	5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	74.5	84.7	↑	84.9	△
48	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか【新規】		65.8		65.9	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表6 「言語活動」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
18	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	46.6	56.7	↑	70.0	▲
19	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	66.7	73.4	↑	83.3	▲
20	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか【新規】		46.7		63.8	▲
38	前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	100.0	96.7	↓	95.4	○
30	前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか【新規】		83.4		90.2	▲
95	言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか	66.7	83.3	↑	88.2	△
96	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか【新規】		96.7		88.2	◎
97	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか【新規】		83.4		90.3	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校

生徒質問紙

表7 生徒の「言語活動」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
7	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	抽出	55.6		48.6	◎
8	友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか	抽出	75.9		70.3	◎
9	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	抽出	93.4		92.2	○
46	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか(※「難しいと思わない」「どちらかといえば難しいと思わない」)	27.8	28.5	↑	33.0	△
47	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか(※「難しいと思わない」「どちらかといえば難しいと思わない」)	28.9	31.4	↑	32.7	△
42	1,2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	88.0	87.4	↓	81.1	◎
43	1,2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	68.1	82.9	↑	75.3	◎
48	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか 【新規】		66.2		61.9	○

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

学校質問紙

表8 「言語活動」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
18	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	60.0	60.0	—	65.6	▲
19	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	70.0	80.0	↑	83.4	△
20	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか 【新規】		60.0		63.8	△

38	前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	80.0	80.0	—	88.2	▲
30	前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか【新規】		80.0		84.9	△
93	言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか	80.0	80.0	—	80.5	△
94	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか【新規】		80.0		75.9	○
95	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか【新規】		50.0		85.4	▲

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

Q&A

Q3 話し合う活動を効果的にさせるよい手立てはありますか？



A 話し合う活動を効果的にさせるには、児童生徒の話し方や聞き方などの技能を確実に習得させる必要があります。中心は国語科ですが、各教科等において国語科で学んだ知識・技能を活用することで定着を促すよう、系統的・計画的に指導していくことが大切です。

その際に、次のようなことに留意しましょう。

- ①各学年における話し合いの具体的な姿を共有する。
- ②「聞く力」を育てる。
- ③話し合いにおける教師の指示の仕方を見直す。
- ④どんな意見でも尊重される学級づくりをする。

話し方、聞き方、話し合いの仕方などについて、初めは、「型(モデル)」を示して指導することも必要です。しかし、型の習得が目的ではありません。

*** あらかじめ用意した意見が言えるだけでなく、相手の考えや思いをとらえて、質問したり、考えを述べたりする力を育てましょう。**

*** 単に「話し合いましょう」と指示をせず、話し合っとうするかを指示しましょう。**

◆相手の言葉をオウム返りする

「〇〇さんの意見は…ですね。」
「〇〇さんは…だと思ったのですね。」

◆相手の話を要約し、確認する

「今の話(意見・感想)を一言で言うと…ということですか。」
「〇〇さんは要するに…と考えたのですね。」

◆共通点と相違点を発表する

「私たちのグループは…というところが同じでしたが、でも、…というところや…というところは違っていました。」
「私と〇〇さんは、…というところが違いましたが、□□という意見にまとまりました。」

◆引用しながら質問をする

「…とはどういうことですか。」
「…については分りましたが、…についてもう一度説明してください。」

*「意見を発表し合い、一番よいと思った意見を1つ選びましょう。」

*「お互いの意見を紹介し合い、参考になった言葉をメモしましょう。」

*「〇〇分間でできるだけ皆さんの考えを出し合いましょう。」

*「2人(グループ)の意見の同じところと違うところをまとめましょう。」

*「2人(グループ)の意見のよいところを組み合わせで1つの意見にしましょう。」

など



A 読書感想文を書くということは、読書を楽しみ、読書によって得た感動やものの見方や考え、新たに発見した事実や獲得した知識を表現し、より一層確実にし、他者に働きかける読書活動です。しかし、子どもにとって原稿用紙2～3枚の感想を急に書くのは難しいものです。教師が、過去の入賞作品やすぐれた書評などをもとに、どのような要素が含まれているか、また1つ1つの要素が文章全体のどの辺りに書かれているかといった構造分析をしてみるとよいでしょう。そして、その1つ1つの要素を国語科において指導する機会はどこかを明確にし、発達段階に応じて、意図的、計画的、継続的に行わなければなりません。また、読書のプロセス(読書前→読書中→読書後)に沿った活用場面も意識して指導するとよいでしょう。自分で問いを思い浮かべ、反応しながら読んでいける読者を育てたいものです。

読書前に

- 本との出会い
 - ・目的やきっかけは？ ・手に取ったときの印象は？
- 表紙や題名から感じたこと
 - ・想像したことは？すでに知っていることは？
 - ・著者について知っていることは？
 - 他の作品、シリーズを読んだことはあるかな？
 - ・同じような登場人物が出てくる話はあるかな？

本選びが重要！

本の選び方の指導も必要です。

そして、繰り返し読む！

読書中に

- 本のあらすじ

作品の重要な要素について

 登場人物に着目すると
 - ・したことは？・言ったことは？
 - ・登場人物の性格は？・登場人物どうしのかかわりは？
 場面に着目すると
 - ・どんなことが起こった？だれが何をした？
 - ・どのように話が進むかな？何が起こるかな？
 - ・大きく変わるところは？
- 心が動いた場面とその理由

本と自分とのつながりについて

 - ・この本から思い出したことは？
 - ・これまでに、似たような興味関心や感情や経験は？
 - ・好きな登場人物は？自分と似ている登場人物は？
 - ・友達になれそうな登場人物は？
 - ・登場人物を自分や家族、友達の誰かと比べてみると？

作者の工夫について

 - ・題名にこめられた思いは？
 - ・作者は、なぜこのように書いたのだろうか？

付箋やカードの活用を！

付箋やカードにメモをとりながら読むことをおすすめします。左に記したようなことについて、頭に浮かんだことを付箋やカードに書いて残し、感想文の構成を考える際に、どの順番に書くと効果的かをあれこれ入れ替えながら考えます。このときに、頭括型、尾括型、双括型のどの型で書くかを意識させましょう。

読書後に

- 発見したことや自分の変化

本を読む前の自分と比べる

 - ・本を読んだことで、新しく知ったことは？
 - ・読む前の自分と読んだ後の自分をくらべて変わったことは？

作品の背景を探る

 - ・作者が、この話題を取り上げたのはなぜだろう？
 - ・著者が伝えたいことやこの作品を書いた目的は？

感想語彙や評価語彙を増

やしていくことも大事です。教室や図書館に掲示し、日頃から意識しましょう。

Q&A

Q5 国語科だけではない、各教科等を通じた言語活動とは、 ということですか？



A 今次学習指導要領の総則には

各教科等の指導に当たっては、児童(生徒)の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童(生徒)の言語活動を充実する。
 とあります。

国語科においては次のような言語活動例が学習指導要領に示されています。

話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
*説明 *報告 *討論 *紹介 *対話 *推薦 *助言 *提案 など	*報告 *記録 *紹介 *新聞 *詩歌、物語、随筆 *鑑賞 *説明 *意見 *批評 *手紙 など	*読み聞かせ *演じる *様々な 本や文章を読む *音読・朗読 *紹介 *推薦 *批評 *感想 *論説・報道の比較 など

一方、国語科以外の各教科等では、例えば、以下のような言語活動に関連する事項が示されています。

たとえば <u>小学校社会</u> では 地域の実態を生かし(中略)観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること	たとえば <u>小学校算数</u> では 整数、小数及び分数についての計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動	たとえば <u>中学校音楽</u> では 音楽を(中略)根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと
--	--	---

国語科以外の教科等に示されている言語活動に関連する事項は、国語科の言語活動例と重なるものがたくさんあります。しかし、国語科と他の教科における言語活動の指導には次のような違いがあります。

- ◆国語科の場合は、児童生徒の言語能力を高めるための言語活動
- ◆国語科以外の教科・領域の場合は、各教科等の目標を効果的に達成するための手立てとしての言語活動

言語活動の充実を図るには、国語科と国語科以外の教科・領域との連携をどのように進めていくか、具体的に検討し、計画的に進めることが大切です。例えば次のような連携が考えられます。

- ①国語科で学習した言語活動を各教科等で活かす。
 (例)記録文の書き方を国語科で学習し、理科で観察記録を書く。
- ②各教科等での学習内容を題材として、国語科で言語活動を展開する。
 (例)社会科で行った調べ学習を、国語科で図表や写真を使って文章にまとめる。
- ③(中学校の場合)国語科での指導内容を全教職員で共有し、各教科等において活用する。
 (例)・話し合いの進め方 ・意見文、感想文、記録文などの様式 ・発言や発表の仕方
 ・話の聞き方やメモの取り方 など

(3) 探究的な学習

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<小学校>

- 課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導
- 本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導
- 資料を使った発表の指導
- 調べたことや考えたことを分りやすく文章に書く指導

<中学校>

- 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことの有用感
- 課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導
- 本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導
- 資料を使った発表の指導
- 調べたことや考えたことを分りやすく文章に書く指導
- 学校図書館を活用した授業を計画的に行うこと

※小中学校質問紙44は、学習環境の未整備によるところが大きいと、ここでは課題として取り上げない。

小学校

児童質問紙

表9 児童の「探究的な学習」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
39	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか <small>※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。</small>	抽出	86.1		85.0	○
40	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	抽出	52.8		63.8	▲
41	5年生までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか	43.5	74.1	↑	77.3	△

※全国平均との差 ▲<-5△<0○<+5◎

学校質問紙

表 10 「探究的な学習」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
42	前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか	66.6	70.0	↑	79.7	▲
39	前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか	90.0	80.0	↓	91.0	▲
40	前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか	70.0	66.7	↓	85.8	▲
41	前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	90.0	83.3	↓	90.6	▲
24	前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか (※学期に数回程度以上実施)	83.3	80.0	↓	80.5	△
44	前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習 (協働学習) や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか	33.3	43.3	↑	64.1	▲

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

中学校

生徒質問紙

表 11 生徒の「探究的な学習」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
39	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	抽出	68.8	△	71.2	△
40	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	抽出	44.5	△	54.8	▲
41	1,2年生のときに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか	27.1	46.9	↑	46.5	○

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

学校質問紙

表 12 「探究的な学習」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
42	前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか	60.0	40.0	↓	79.6	▲
39	前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか	40.0	40.0	—	78.2	▲
40	前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか	60.0	40.0	↓	78.1	▲
41	前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	60.0	50.0	↓	86.5	▲
24	前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか ※学期に数回程度以上実施	20.0	40.0	↑	42.2	△
44	前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか	40.0	10.0	↓	51.2	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

Q&A

Q6 本やインターネットを使った資料の調べ方について、 どのようなことを指導すればいいですか？



- A ◎本とインターネットそれぞれの長所と短所を知らせ、それぞれの特性を生かして利用できるようにしましょう。
- ◎インターネット検索だけで情報を集めるのではなく、まず、活字メディアである本や雑誌を使って情報を得るようにしましょう。具体的には、調べるテーマが決まったら、百科事典や図鑑などの参考図書と呼ばれる本を使い、テーマの全体像や基本的な知識を得た上で、それらをもとに特定のテーマについての専門書やインターネットで調べるとよいでしょう。

本

情報を探す指導

- ・図書館の本の配架のきまり、本の分類
- ・題名、目次、索引、見出し、奥付、前書きの見方、またそれらからおおよその内容を予想すること

情報を読み取る指導

- ・図鑑、辞典、事典の使い方
- ・新聞、パンフレット、リーフレット、年鑑、統計資料の見方
- ・付箋やしおりを活用し、必要な情報にしるしをつけること

情報を記録する指導

- ・目的に応じてワークシート、付箋、情報カード、ノートなどに記録すること
- ・引用、要約の仕方 ・出典の書き方 ・著作権

インターネット

検索する言葉を選ぶ

- ・キーワードを探し、調べたいことをキーワードで検索すること（検索語選びには、上位語、下位語についての指導も必要です）

見極める

- ・探したいことがどのカテゴリー（分類）にあるかを考えること
- ・検索結果一覧にあるサイトの名前やサイトの説明からふさわしいものを選ぶこと

確かめる

- ・情報の信頼性を確かめること
- ・複数の情報を比べること
- ・調べたサイトのキーワードやトップページの名前を控えること

これらのことを発達段階に応じて、系統的に指導していく必要があります。また、テーマの決め方や目的に合わせて集めた情報を分析・整理し、効果的にまとめる指導も必要です。

(4) 読書活動

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<小学校>

- 授業時間以外での読書時間や学校図書館の利用
- 読書が好きな児童の割合

<中学校>

- 授業時間以外での読書時間や学校図書館の利用
- 読書が好きな生徒の割合

小学校

児童質問紙

表 13 児童の「読書活動」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
17	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) (※30分以上)	31.6	34.6	↑	38.2	△
18	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか (※週に1回程度以上)	17.6	16.0	↓	18.7	△
53	読書は好きですか	71.7	72.0	↑	73.0	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 14 「読書活動」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
23	前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか (※週に複数回以上、定期的に行った)	83.4	90.0	↑	61.1	◎

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校

生徒質問紙

表 15 生徒の「読書活動」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
17	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) (※30分以上)	22.3	27.4	↑	31.4	△
18	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか (※週に1回程度以上)	5.5	5.4	↓	8.0	△
53	読書は好きですか	68.8	69.8	↑	69.4	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 16 「読書活動」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
23	前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか (※週に複数回以上、定期的に行った)	90.0	90.0	—	79.8	◎

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

Q7 本好きな子を増やすには、どうすればいいですか？



A 子どもを読書好きにするには、「土壌づくり」が大切です。

「土壌づくり」とは、

①本があるか②案内役の大人がいるか③本を楽しむ仲間がいるか④本を読む時間があるか
ということです。

まずは、子ども達にとって信頼できる大人からの読み聞かせが日常的になるといいでしょう。学校においては、やはり担任の先生の読み聞かせが1番ではないでしょうか。

読み聞かせは、本の世界を他者の声で聞き、読み手とのつながりの中で、本が描き出す世界に入っていき経験です。子どもたちが本の中にある言葉と出会い、その言葉を覚え、言葉を自分のものにしていく経験を重ねることで、自分の言葉や心が形づくられていきます。こうした本の世界を身体で感じとっていく経験が、自ら本の世界にひたっていく経験の入り口になります。

また、絵本の読み聞かせだけでなく、長編の物語やノンフィクションなどを学年に応じて、毎朝少しずつ読み聞かせをすることも効果的です。これは、「朝の連続小説」と言ったりもします。

これのいいところは、

- ・教師と子どもが物語を楽しむ時間を共有することができる。
- ・質のいい物語を速読でなく、丁寧に楽しく物語の筋を聞きとることにより、想像力や思考力を養う。
- ・絵本だけでなく、長いお話に親しむきっかけにする。

ということです。長編というのは、毎日読むところが面白いわけではありません。最初の背景描写や人物紹介等のところでは、多少忍耐を必要とするときもありますが、途中から続きを聞くのが楽しみになってきます。一度そうなれば、長編への信頼が生まれます。そして、自然と物語の構造を感じ取り、読む忍耐力を育てるのにも有効です。みんなで聞き、同じところで笑ったりする一体感も生まれたり、共通の話題になったりもします。

他にも、読書リレー(感想をつけ足してクラスで回し読み)や、後ろのロッカーの上に、一人一人が選んだ本を並べて、その上の掲示板に、感想を貼り足していくような取り組み、読書ゆうびんや読書会、読んだ本の紹介、推薦活動といった本を介して人と人がつながるような取組をしてみましょう。

そして、最も基本は、担任が子どもの本を読み、本について語ることです。そして、子どもが読んでいる本を見て、声をかけること。担任が知っているお話なら、「○○は、もう出てきたかな？」「事件はもう起こったかな？」とか…。本を手渡すとき、「○ページまでは、がんばって読んでごらん。そこからがおもしろくなるから。」と言ってあげることができれば、なおよいです。

読書記録カードを書かせるのなら、きちんと教師が目を通し、コメントを書いてあげると励みになりますね。

そういった地味な取組の積み重ねがきっと実を結ぶことと思います。

2 家庭学習

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<小学校>

- 休日の家庭での学習時間
- 家で、自分で計画を立てて勉強をすること
- 家で、予習や復習をすること

- 調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えること

<中学校>

- 平日や休日の家庭での学習時間
- 家で、自分で計画を立てて勉強をすること
- 家で、予習や復習をすること

- 生徒に与えた家庭学習の国語の課題について、評価・指導すること
- 保護者に対して生徒の家庭学習を促す働きかけをすること
- 家庭学習の課題の与え方について、校内で共通理解を図ること
- 調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えること
- 生徒に家庭学習の方法等を具体例を挙げながら教えること

※児童・生徒質問紙16は、実態を把握するにとどめ、課題とはみなさない。

小学校

児童質問紙

表17 児童の「家庭学習」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
14	※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む) (※30分以上)	87.4	86.3	↓	87.2	△

15	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む) (※1時間以上)	46.6	49.0	↑	55.9	▲
16	学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか	53.6	51.1	↓	47.7	○
21	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	57.9	61.2	↑	61.0	○
22	家で、学校の宿題をしていますか	97.3	97.1	↓	96.5	○
23	家で、学校の授業の予習をしていますか	43.3	45.9	↑	43.2	○
24	家で、学校の授業の復習をしていますか	48.3	52.8	↑	54.0	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 18 「家庭学習の指導」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
80	前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	100.0	100.0	—	99.4	○
81	前年度までに、国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題(長期休業中の課題を除く)について、評価・指導しましたか	100.0	100.0	—	97.8	○
82	前年度までに、算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	100.0	100.0	—	99.5	○
83	前年度までに、算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題(長期休業中の課題を除く)について、評価・指導しましたか	100.0	100.0	—	98.0	○
84	前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語/算数共通)	国 100.0 算 100.0	100.0	—	95.9	○
85	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語/算数共通)	国 93.4 算 93.4	96.7	↑	85.4	◎
86	家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか(国語/算数共通)	80.0	76.7	↓	77.8	△
87	家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(国語/算数共通)	93.3	90.0	↓	88.2	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校

生徒質問紙

表 19 生徒の「家庭学習の指導」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
14	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む） （※1 時間以上）	64.0	60.7	↓	67.9	▲
15	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む） （※2 時間以上）	29.2	28.1	↓	40.3	▲
16	学習塾（家庭教師の先生に教わっている場合も含む）で勉強をしていますか	65.7	64.8	↓	60.3	○
21	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	44.7	48.9	↑	46.6	○
22	家で、学校の宿題をしていますか	86.8	87.7	↑	88.2	△
23	家で、学校の授業の予習をしていますか	30.1	31.9	↑	34.2	△
24	家で、学校の授業の復習をしていますか	44.6	44.9	↑	50.4	▲

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

学校質問紙

表 20 「家庭学習の指導」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
78	前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	90.0	100.0	↑	90.9	◎
79	前年度までに、国語の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業中の課題を除く）について、評価・指導しましたか	90.0	80.0	↓	93.8	▲
80	前年度までに、数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	80.0	100.0	↑	93.3	◎
81	前年度までに、数学の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業中の課題を除く）について、評価・指導しましたか	80.0	90.0	↑	93.9	△

82	前年度までに、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか (国語/数学 共通)	国 60.0 数 80.0	70.0	—	85.4	▲
83	前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか (国語/数学 共通)	国 90.0 数 80.0	60.0	↓	76.9	▲
84	前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか (国語/数学 共通)	50.0	50.0	—	64.2	▲
85	前年度までに、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか (国語/数学 共通)	80.0	60.0	↓	84.8	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

Q&A

Q8 宿題がマンネリ化しないために、できる工夫はありますか？



A 宿題は、学習内容の定着や学習習慣の確立のために必要な取組です。授業と宿題との関連付け、予習—授業—復習のサイクルの確立を意識し、提出された宿題への適切な助言や宿題を定着させるための家庭との連携が大切です。

【予習となる宿題】

- ・これから学習する内容について予め教科書を読んで、分からないことや知りたいことに付箋をつける（カードに書く）（ノートに書く）。
- ・新しい単元にかかわる既習の問題を解く。 など

【復習となる宿題】

- ・授業で学習したことの反復練習をする。
- ・1か月前、前の学期などに習った内容について問題を解く。
- ・子どもの習熟に合わせて、子どもが選択できる内容にする。 など

【自主学習としての宿題】

<小学生の場合>…低学年・中学年・高学年の発達段階に応じて工夫しましょう

(例) ・うそ日記やへんしん作文 ・物語作り ・～のつく漢字あつめ ・漢字熟語しりとり
 ・俳句作り（五・七・五） ・詩をつくる（絵もかく） ・ぼく、わたしのじまん
 ・家族の紹介（ペットも入れる） ・好きなもの紹介 ・おススメの本の紹介
 ・都道府県と県庁所在地調べ ・算数の文章問題作り ・世界地図と世界の国の特徴調べ
 ・歴史上の人物調べ ・新聞の切りぬきにコメントをつける ・ニュースについて思うこと
 ・コンパスでもよう作り ・植物調べ ・植物、動物観察日記 ・星座観察
 ・星座の神話調べ ・料理調べ ・四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句調べ など
 ※学年に応じて、「日記」「先生に聞きたいこと」「作文（ユニークなテーマで）」「自分で考えたお話作り」「計算練習」「生き物観察記録」「インタビュー」「自分で調べたこと」「授業の復習」などをおりませ、1日分の宿題を1枚のプリントにして配布する方法もあります。

<中学生の場合>

(例) ・学習したことを、教科書や授業ノート、参考書を使って、まとめる。
 ・新聞や雑誌などから興味のある記事を切り抜いて感想を書く。
 ・明日の学習範囲を読み、疑問に思うところに線を引いたり、新出用語を調べたりする。
 ・教科書や学習ノートを読んで、自分のオリジナル参考書を作る。

3 教員の研修・取組

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<小学校>

- 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにすること
- 知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成すること
- 教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校と連携（教師の合同研修，教師の交流，教育課程の接続など）を行うこと

<中学校>

- 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにすること
- 知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成すること
- 学校の教育目標やその達成に向けた方策について，全教職員で共有し，取り組むこと
- 教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携（教師の合同研修，教師の交流，教育課程の接続など）を行うこと

小学校

学校質問紙

表 21 「教員の研修や取組」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
47	※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載 平成 25 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか	93.3	96.7	↑	97.1	△
48	平成 25 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100.0	96.7	↓	93.6	○
88	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	100.0	90.0	↓	92.5	△

89	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	96.7	93.4	↓	94.9	△
90	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	80.0	83.3	↑	96.2	▲
92	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	93.3	96.7	↑	95.5	○
93	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	93.4	96.7	↑	95.1	○
94	知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成していますか	76.7	76.7	—	83.8	▲
98	学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか	96.7	100.0	↑	98.6	○
99	学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか	96.7	100.0	↑	98.2	○
100	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか【新規】		96.7		97.3	△
101	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか (※週に2～3日程度以上)	93.3	96.6	↑	91.6	○
72	教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っていますか	36.6	36.6	—	62.4	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校

学校質問紙

表 22 「教員の研修や取組」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
47	平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか	90.0	100.0	↑	95.3	○
48	平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	80.0	100.0	↑	90.4	◎
86	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	100.0	90.0	↓	84.8	◎
87	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	100.0	100.0	—	86.7	◎
88	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	80.0	80.0	—	92.7	▲

90	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	70.0	90.0	↑	90.8	△
91	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	100.0	90.0	↓	93.6	△
92	知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成していますか	60.0	60.0	—	82.5	▲
96	学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか	100.0	90.0	↓	97.3	▲
97	学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか	90.0	100.0	↑	97.2	○
98	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか【新規】		100.0		95.8	○
99	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか ※週に2～3日程度以上	100.0	80.0	↓	79.3	○
70	教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携（教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など）を行っていますか	30.0	40.0	↑	72.1	▲

※全国平均との差 ▲<-5△<0○<+5◎

Q&A

Q9 小中学校の連携について、全国的には、どのような取組がありますか？



A 現在、全国的に、「小中連携」(小・中学校が互いに情報交換、交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育)の取組から、「小中一貫教育」(小中連携のうち、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育)の取組まで、各地域の実態に応じた様々な取組が行われています。

全国を取組例としては、以下のような実践があります。鈴鹿市でも、中学校区の実態に応じ、できることから取り組んでいるところです。

● **中学校区の児童生徒の学習面での現状と課題を明らかにし、中1ギャップの解消や学力向上と教員の指導力向上をめざした取組として**

- ・交流授業や相互授業参観
- ・外国語活動と英語科の円滑な接続に向けた連携
- ・内容の系統性を重視した授業づくり
- ・同じ手法を取り入れた授業改善
- ・合同授業研究会
- ・ティームティーチング
- ・学力・学習状況調査等の分析や対策を検討
- ・学習規律の共通化
- ・「家庭学習の手引き」作成 等

● **中学校区の生徒指導や人権教育の体制を整え、児童生徒が安心して過ごせる環境づくりやよりよい人間関係づくりをめざした取組として**

- ・小中統一した生活目標の設定
- ・小中合同挨拶運動
- ・ノーテレビ、ノーゲームデーの取組
- ・生命や人権を尊重する態度を育てるための取組
- ・いじめを許さない態度を育てるための取組
- ・部活動参観 等

● **行事や交流授業での児童生徒同士や家庭・地域とのつながりを強化する取組として**

- ・広報作成
- ・合同奉仕作業
- ・体験入学 等

小中連携は、継続した息の長い取組にしていくことで、より高い教育効果が期待できます。地域の実態に応じて、無理なくできる取組から始め、実践を検証しながら新しい取組を取り入れる等柔軟に取組を進めていくことが大切です。

4 学校生活

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<中学校>

- 学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えたときに相談できるようにすること

小学校

児童質問紙

表 23 児童の「学校生活」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
25	学校に行くのは楽しいと思いますか	85.6	88.1	↑	86.6	○
26	学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えたら、誰に相談することが多いですか【新規】 (※先生、友達、家族、SCのうち誰かには相談する)		83.6		79.3	○
27	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか【新規】		87.8		86.5	○

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

中学校

生徒質問紙

表 24 生徒の「学校生活」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
25	学校に行くのは楽しいと思いますか	82.0	84.9	↑	82.4	○
26	学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えたら、誰に相談することが多いですか【新規】 (※先生、友達、家族、SCのうち誰かには相談する)		77.4		72.7	○
27	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか【新規】		86.1		84.5	○

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

Q10 子どもが相談しやすい関係づくりをどうすればいいですか？



A 今年の研修講座「学級経営」で講師として来ていただいた諸富先生は、これからの学校カウンセリングで最も必要とされているのは、子どもたちや保護者や同僚からどうすれば助けを求めてもらえるか、つまり「援助希求＝help-seeking」してもらえる関係づくりこそ、学校教育における急務であり、最重要課題であるといえます。

「援助希求」＝「安心して、助けを求めたり、相談したりすることができる」

教師をはじめとする大人が、子どもたちから「助けを求めてもらえる関係」をどう作っていくか、これが子ども、ひいては混迷する教育現場、教師自身を救う鍵になるといえます。

例えば、著書の中で次のような方法を記しています。

- 「開かれた質問」を使って、相手が助けを求めやすい関係をつくる。

答えが1つしかない質問ではなく、例えば、「最近、どうですか？」といった、何でも答えられるような質問のこと。「相手が話したいことを話すきっかけ」をつくるための質問です。

- 「この先生のそばにいて、あるがままの自分であることができる。この先生は、私といるときは、時間も心のエネルギーも、すべて私のために提供してくれている。」そんなふうを感じることでできる心の空間(スペース)を提供すること。

- 教師は相手がホッとできる“心のスペース”をつくり、“忙しいビーム”を放たない。

- 自分の気持ちを伝えたいときには、「わたしメッセージ」で伝える。

自分の気持ちを伝えるときに、「あなたは〇〇でしょう」と、二人称で伝えるのではなく、「私は」を主語にして、「私は〇〇と思っているのよ」と一人称に置き換えて、子どもに気持ちを伝えること

- 一人10分でもいい。定期教育相談は、悩みがある子だけでなく、すべての子どもを対象にする。
- 小5から高1くらいの子は、深い悩みは担任には相談できない。子どもが選んだ担任以外の先生と“相談できる関係”をつくる。
- 月に1回5分程度でできる簡単なアンケートで、子どものSOSのサインを受け取る。

SOSを出してもらいやすい簡単なアンケート例

アンケート	名前
1 夜、眠れないことがある ()	
2 ときどき、お腹が痛くなったり、頭が痛くなったりする ()	
3 ときどき気分が重たくて、元気が出ないことがある ()	
4 学校にいきたくないなと思うことがある ()	
5 あんまり友だちがいらないんじゃないかと思うことがある ()	
6 私はときどきいじられたり、からかわれたり、もしかすると、いじめられたりしているかもしれないと思うことがある ()	
7 先生はわたしのことをわかってくれない ()	

少し遠まわしな言い方でアンケートを作ります。

(諸富祥彦. 図とイラストですぐわかる 教師が使えるカウンセリングテクニック 80. 図書文化, 014, 190p.)

5 基本的な生活習慣・家庭生活

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

小学校

質問紙調査結果からみえる課題

<小学校>

- 1日当たりのテレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間
- 1日当たりのテレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間

<中学校>

- 1日当たりのテレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間
- 1日当たりのテレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間
- 1日当たりの携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットをする時間

※生徒質問紙2は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

児童質問紙

表 25 児童の「基本的な生活習慣や家庭生活」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
1	朝食を毎日食べていますか	96.5	95.9	↓	96.0	△
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	80.9	83.1	↑	79.2	○
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.3	92.9	↑	90.9	○
11	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか (※2時間より少ない)	38.1	43.8	↑	38.6	◎
12	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか (※1時間より少ない)	48.0	45.8	↓	45.2	○

13	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）【新規】 （※「1時間より少ない」か「持っていない」）		85.4		84.9	○
----	---	--	------	--	------	---

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校

生徒質問紙

表 26 生徒の「基本的な生活習慣や家庭生活」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
	※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。					
1	朝食を毎日食べていますか	94.6	93.8	↓	93.5	○
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	76.5	78.1	↑	74.1	○
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.4	94.1	↑	92.1	○
11	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲームをする時間は除く） （※2時間より少ない）	44.1	43.9	↓	43.5	○
12	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか （※1時間より少ない）	50.4	42.3	↓	43.5	△
13	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）【新規】 （※「1時間より少ない」か「持っていない」）		49.3		52.0	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

Q11 テレビやゲームの時間を短くする取組には、どのようなものがありますか？



A 人間の脳の中で一番発達している部分は、大脳の前頭葉の中(額の裏側)にある「前頭前野」です。記憶や思考, 対話, 感情の制御, 行動の抑制, 意欲, 意思決定などを担い, 人間を人間たらしめている部分です。テレビやゲームを長時間にわたって視聴し続けると, この「前頭前野」の発達に影響があることが脳科学の研究で言われています。このようなことから, 全国的に, 「ノーテレビ」あるいは「ノーテレビノーゲーム」の取組が広がっています。

《取組例》

*ノーテレビ(ノーゲーム)デー

月に1日, 朝から寝るまでテレビをつけない日(ゲームをしない日)をつくる。

(例) 毎月第1(水), 毎月20日 などと決める

*ノーテレビ(ノーゲーム)ウィーク

1週間テレビを見ない(ゲームをしない)週を体験する。

*ノーテレビ(ノーゲーム)チャレンジ

テレビを全く見ない(ゲームを全くしない)週と2時間(ゲームは1時間)までしてよい週を交互に繰り返し1ヶ月取り組む。

*食事時のノーテレビチャレンジ…食事のときにテレビをつけないようにする。

鈴鹿市でも, 「ノーメディアウィーク」と名づけ, 以下のような内容で, 中学校区で一斉に取り組んでいる地域があります。

- * 年間5回の中学校の定期テスト前の1週間を「ノーテレビウィーク」とし, 5回のうち3回は, 中学校区の1幼稚園, 4小学校も一斉に取り組めます。「ノーテレビ」の取組を通信に掲載したり, 「ノーテレビウィーク」のキャラクターを作成したりして, 啓発を行っています。この期間に併せて, 親子読書に取り組んでいる小学校もあります。

この取組例のように, 「メディア漬け」による弊害と併せて, テレビを見ない(ゲームをしない)ことによって生み出される時間の有効利用を啓発するといいいですね。

(例)外遊び・読書・新聞を読む・手伝い・家族との会話など

秋の読書週間や新聞週間に取り組むのも1つの方法です。また, 学校単独で取り組む以外にもPTAの活動として取り組む方法もあります。大人も一緒に取り組む姿勢が大切です。

6 家族・地域・社会とのかかわり

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<小学校>

- 地域や社会で起こっている問題や出来事への関心や地域や社会をよくするために何をすべきかを考えること
- 新聞を読むこと
- 教科や総合的な学習の時間、朝や帰りの会等で、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱うこと

<中学校>

- 地域や社会で起こっている問題や出来事への関心や地域や社会をよくするために何をすべきかを考えること
- 新聞を読むこと
- 教科や総合的な学習の時間、朝や帰りの会等で、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱うこと
- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行うこと

※児童質問紙 29 生徒質問紙 19, 20, 29 小学校質問紙 75, 76 中学校質問紙 72, 73 は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

小学校

児童質問紙

表 27 児童の「家族・地域・社会とのかかわり」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
19	※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	75.6	83.2	↑	80.4	○
20	家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか	抽出	97.5		96.5	○

29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	64.3	75.1	↑	68.0	◎
30	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	55.2	63.5	↑	62.9	○
31	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	34.9	42.7	↑	42.5	○
32	新聞を読んでいますか	抽出	26.4		27.1	△
33	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)	抽出	82.8		84.7	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 28 「家族・地域・社会とのかかわり」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
43	前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか【新規】		73.3		73.3	—
73	前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	90.0	86.7	↓	76.3	◎
74	前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	90.0	93.3	↑	41.1	◎
75	前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	23.3	20.0	↓	37.4	▲
76	職場見学や職場体験活動を行っていますか	26.7	33.3	↑	44.9	▲
77	P T A や地域の人が学校の諸活動(学校の美化など)にボランティアとして参加してくれますか	100.0	100.0	—	96.8	○
78	学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか	100.0	100.0	—	82.7	◎
79	保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	100.0	96.7	↓	94.7	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校

生徒質問紙

表 29 生徒の「家庭・地域・社会とのかかわり」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
19	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	70.4	75.9	↑	72.6	○
20	家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか	抽出	74.8		83.1	▲
29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	42.5	48.0	↑	43.5	○
30	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	51.3	55.9	↑	55.6	○
31	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	26.9	31.7	↑	31.2	○
32	新聞を読んでいますか	抽出	22.0		21.1	○
33	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	抽出	80.5		82.1	△

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

学校質問紙

表 30 「家庭・地域・社会とのかかわり」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
43	前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか【新規】		20.0		63.4	▲
71	前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	60.0	60.0	—	58.5	○
72	前年度までに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか	10.0	10.0	—	24.2	▲
73	前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	0.0	0.0	—	15.0	▲
74	職場見学や職場体験活動を行っていますか	100.0	100.0	—	98.5	○
75	P T A や地域の人が学校の諸活動（学校の美化など）にボランティアとして参加してくれますか	100.0	100.0	—	94.6	◎

76	学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか	80.0	90.0	↑	67.2	◎
77	保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	80.0	90.0	↑	87.6	○

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

Q&A

Q12 新聞に興味をもたせるには、どうしたらいいですか？



A 今次学習指導要領では、各教科・領域の指導の中で積極的に新聞を活用することが明記されています。また、国は、学校図書館への新聞配備も進めています。

最近では、新聞を購読している家庭が減りつつあります。家では新聞を読むことができない児童生徒もいることから、学校で、新聞を活用する学習活動を意図的に設けたり、日常的に新聞記事について話題にしたり、掲示したりして言語環境を整えるとよいでしょう。

各新聞社からNIEガイドブックやワークブックが出され、たくさんの実践が紹介されています。NIEのサイトや各新聞社のHPなどから情報を得て、参考にすることができます。

(※NIE=Newspaper in Education=「エヌ・アイ・イー」と読みます。)

例えば…次のような実践例が載っています。

- 「朝読書」の時間に新聞を読む。
- 「こそあど言葉さがし」「これ、それ、あれ、どれ」などの指示語を新聞記事の中から探し出す。
- 新聞からカタカナ言葉や知っている漢字などを探し、新聞への親しみをもたせる。
- 「見出しと写真でぴったんこ」見出しを読んで、見出しに合う写真付き記事を選ぶ。
- 新聞の写真を利用して、その写真を飾る額縁をデザインする。
- 記事を読んで、見出しを考える。
- 印象に残る写真を選び、その記事の見出しや要約を記述する。
- 心が温かくなるハッピーニュースを探し、その記事を選んだ理由を書いて交流する。
- 複数の新聞社の記事を比較読みする。
- 新聞からディベートの題材を探す。
- 新聞切り抜き作品をつくる。 など

ゲーム感覚で新聞に興味をもたせる実践から各教科等における活用例まで、さまざまな実践が紹介されています。

7 自尊意識等

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<小学校>

- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦すること
- 自分には、よいところがあると思うことができること

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導

<中学校>

- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦すること
- 自分には、よいところがあると思うことができること
- 将来の夢や目標をもつこと

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導
- 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えること

小学校

児童質問紙

表 31 児童の「自尊意識等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
4	※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	94.6	94.9	↑	94.4	○
5	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	77.7	77.0	↓	75.1	○
6	自分には、よいところがあると思いますか	76.6	77.5	↑	76.1	○
10	将来の夢や目標を持っていますか	86.0	87.4	↑	86.7	○
28	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか【新規】		80.0		79.7	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 32 「自尊意識等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
33	前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	70.0	73.4	↑	72.0	○
34	前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価しましたか【新規】		96.6		96.9	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校

生徒質問紙

表 33 生徒の「自尊意識等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	93.3	94.4	↑	93.9	○
5	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	70.1	72.7	↑	68.0	○
6	自分には、よいところがあると思いますか	68.3	74.4	↑	67.1	◎
10	将来の夢や目標を持っていますか	70.9	72.4	↑	71.4	○
28	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか【新規】		80.7		74.1	◎

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 34 「自尊意識等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
33	前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	100.0	80.0	↓	94.2	▲
34	前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか【新規】		90.0		96.5	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

Q13 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導とは、どのような指導をすることですか？



A 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すためのキャリア教育の推進・充実が求められています。「将来就きたい仕事や夢」に関する小学生期や中学生期のキャリア発達課題には次のようなものが考えられます。

小学校 低学年	・身近で働く人々に対して興味や関心をもつ。 ・自分の好きなもの、大切なものをもつ。 など
小学校 中学年	・日常生活や学習が将来の生き方と関係することに気付き、将来への夢や希望をもって生活をする。 ・世の中にはいろいろな職業や生き方があるということを理解する。 など
小学校 高学年	・憧れとする職業をもち、そのために今しなければならないことを考える。 ・小学校で学んだことや体験したことが、自分の生活や将来の職業と関連があることに気付く。 など
中学校 1年	・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。 ・将来に対する漠然とした夢や憧れを抱いている。 など
中学校 2年	・体験等を通して、勤労の意義や働く人々のさまざまな思いがわかる。 ・将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。 など
中学校 3年	・係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かそうとする。 ・将来設計を達成するための困難を理解しそれを克服するための努力に向かう。 など

＜各教科等における実践例＞

4年 社会 「安全なくらしとまちづくり」→モデルとなる生き方との出会いを通して夢をはぐくむ

5年 国語 「百年後のふるさとを守る」→伝記から生き方、考え方を学び、自己の生き方について考えさせる

6年 社会 「世界のなかの日本とわたしたち」→夢や希望、憧れる自己イメージをはぐくむ

6年 外国語活動「「夢宣言」をしよう Lesson8 What do you want to be?」

→外国語等を用いて将来の夢を紹介し、コミュニケーションの楽しさを味わわせる

生活科・総合的な学習→夢工房、地域のゲストティーチャーとの出会いから、仕事への視野を広げ自分を見つめさせる

中学校1年 学級活動「10年後の自分を考えよう」→具体的な自分の将来像を考えることにより、将来の生き方に関する意識を高める。

中学校2年 総合的な学習「充実した生き方を探る」

→職場体験活動及び報告会等を通して、働くことで得られる達成感や苦勞を知ることによって視野を広げ、将来の生き方について考える。

中学校3年 理科「自然・科学技術と人間」

→将来との関わりの中で理科を学ぶ意義を実感させ、理科で学んださまざまなことが職業にも生かされることについて考える。

他にも、まだまだ関わりの深い学習内容があります。「将来の仕事や夢」という視点で教育課程を眺めてみましょう。

8 規範意識

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

※特に課題となる質問項目はない

小学校

児童質問紙

表 35 児童の「規範意識」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
34	学校のきまりを守っていますか	91.9	92.4	↑	90.5	○
35	友達との約束を守っていますか	抽出	98.4		97.3	○
36	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	92.0	95.6	↑	94.4	○
37	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.3	97.4	↑	96.4	○
38	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	92.8	94.3	↑	94.0	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校

生徒質問紙

表 36 生徒の「規範意識」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
34	学校の規則を守っていますか	94.8	95.2	↑	93.0	○
35	友達との約束を守っていますか	抽出	97.7		97.1	○
36	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	94.5	95.8	↑	95.3	○
37	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	94.9	94.4	↓	93.4	○
38	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.4	94.6	↑	94.0	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

参考文献

- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課. 特集, 見通しを立てたり, 振り返ったりする学習活動の重視: 「見通す・振り返る」学習活動の重視とその意義. 初等教育資料. 2014. 4, no. 912, p2-5.
- ・佐藤真. 特集, 見通しを立てたり, 振り返ったりする学習活動の重視: 各教科等での「見通し・振り返り」学習活動の充実. 初等教育資料. 2014. 4, no. 912, p6-10.
- ・阿部英高. 明日からできる活用力育成 言葉を鍛えて学力向上. 文溪堂, 2014, 94p.
- ・第6回小学校全国国語教育研究大会 (2014.8.2)
【研究主題】各教科等を支える記述力の育成と国語科の授業研究
第1分科会 算数科における記述力の指導と実際 岩手県大慈寺小学校発表資料
- ・栃木県教育委員会事務局芳賀教育事務所. “Q&A集”.
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m53/system/desaki/desaki/1182379759327.html>, (参照 2014-10-21).
- ・横浜市教育委員会. 言語活動サポートブック—くりかえし指導したい44の言語活動. 時事通信社, 2012, 157p.
- ・鈴鹿市立教育研究所. 学校図書館活用サポートブック. 2013.
- ・守口市教育委員会. “家庭学習リーフレット PART IV 夢をかなえるチャレンジ学習”.
http://www.moriguchi-osk.ed.jp/pdf/H25_kateigakusyuu_leaflet.pdf, (参照 2014-10-23).
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会学校段階の連携・接続等に関する作業部会. “小中連携, 一貫教育に関する主な意見等の整理”.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/045/houkoku/1325182.htm,
(参照 2014-10-27).
- ・埼玉県教育委員会. “小中一貫教育推進ガイド”.
<http://www.pref.saitama.lg.jp/uploaded/attachment/597661.pdf>, (参照 2014-10-27).
- ・姫路市教育委員会学校指導課小中一貫教育推進係. “小中一貫教育の展開”.
http://www.city.himeji.lg.jp/s110/2212766/_16310.html, (参照 2014-10-23).
- ・宇治市教育委員会. “宇治市の小中一貫教育”. <http://www.uji.ed.jp/ikkan.html>, (参照 2014-10-27).
- ・諸富祥彦. 図とイラストですぐわかる教師が使えるカウンセリングテクニク 80. 図書文化, 2014,

190p.

- ・中日新聞 NIE 事務局. 教育に生かそう新聞学習カリキュラム 小学校編. 中日新聞社, 2007, 60p.
- ・中日新聞 NIE 事務局. 教育に生かそう新聞学習カリキュラム 中学校編. 中日新聞社, 2008, 67p.
- ・朝日新聞社 NIE 事務局. 新聞授業ガイドブック. 朝日新聞, 2011, 39p.
- ・朝日新聞教育総合センター. 新聞授業実践ワークブック. 朝日新聞, 23p.
- ・文部科学省. 小学校キャリア教育の手引き (改訂版). 教育出版, 2012, 191p.
- ・文部科学省. 中学校キャリア教育の手引き. 教育出版, 2011, 191p.
- ・文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター. キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書. 実業之日本社, 2013, 192p.
- ・秋田県小・中学校進路指導研究会編. キャリア教育実践ガイドブック～様々な活動ではぐくむキャリア教育～, 2013, 143p.